

平成 29 年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

小論文 【私費外国人留学生入試】		
出題意図	評価ポイント	
<p>この問題は、日本社会における大学の位置づけ、役割、問題点について、大学進学を希望する受験生がどのように考えるかを問うものである。受験の過程で繰り返し聞かれたであろう「志望理由」や「目標」ではなく、「そもそも（学校としての）大学は何をしているのか」を問われたとき、どのような議論を展開できるか。この問題は、「大学」を題材に、社会科学的な考え方の資質を問うことを意図している。</p> <p>問題文は、日本社会における大学教育の特徴を、「教育の質の不問」に焦点つけて、国際比較の観点から論じたものである。文章の表現に難解な箇所はなく、論旨は明快であり、解答者が議論を構成するうえで適切な題材である。</p> <p>問1では、「教育の質の不問」という大学教育の（従来の）日本の特徴の要因を、問題文から適切に読み取り、解釈し、決められた字数内で表現することができるかを問う。</p> <p>問2では、これまでの大学教育の日本の特徴の問題点を整理したうえで、社会における大学・大学教育の役割について、根拠をもって論じることができるかを問う。</p>	問1	<p>教育の場としての大学の役割が、「初等中等教育」と「終身雇用を前提としたOJT」にはさまれて規定されてきた点に言及していること。したがって、たとえば、「大学はさまざまな経験を積むための場・時間と見なされてきたから」だけでは、たとえ字数制限を満たしていたとしても減点する。</p>
	問2	<p>筆者の議論を踏まえたうえで自らの主張を展開していること。具体的には、「4年間のさまざまな経験」のうち、とくに「授業以外での体験」に関心が向けられてきたことに言及し、その問題点、あるいは利点について述べること。また、「大学で自分自身は何がしたいか」ではなく、「大学とはどういう場か」、「大学とは何か」を中心に議論を展開し、自身の主張の根拠・理由も明確に述べること。</p>